

# 最新機種ダヴィンチ ～外科、泌尿器科をサポート

## 最新手術支援ロボットダヴィンチSP サージカルシステム(単孔式)の導入

総合外科部長 秦 浩一郎

ダヴィンチSPは、手術支援ロボットであるダヴィンチ・サージカルシステムの最新機種で、従来の手術支援ロボットが複数のアームを用いて手術を行うマルチポート型(多孔式)であるのに対し、アームが1本のシングルポート型(単孔式)であるのが特徴です(下図)。



### da Vinci (ダヴィンチ)SP



アームには直径2.5cmの筒の中に、3Dカメラ(内視鏡)と3本の鉗子(外科医の手に相当。通電可能な電気メスなども含む)が集約されており、これを体腔内に挿入して手術を行います。最少で お臍の傷(2.7cm)だけで手術ができ、痛みが減り負担も少ない低侵襲手術が可能になります(腫瘍の大きさや部位によっては、安全確保のため1~2つのポート孔

を追加する場合があります)。

消化器外科領域では、炭酸ガスでお腹を膨らませる気腹圧により出血量が少なく済むこと、術後の消化管(腸)蠕動の回復も早く、癒着も少ない、といった従来の鏡視下手術の利点はそのままに、ダヴィンチSPによる手術創の最小化(最少化)によって、整容性の向上のみならず、入院期間の更なる短縮と、より早期の社会復帰、日常生活への復帰が期待できます。

更に、手術アームを1本に集約化したことで、体腔内の奥深く かつ狭い術野へのアクセスが有利になった点もSPの利点です。高解像度カメラによる拡大視(実際の10~15倍)+立体視(3D)効果により、細かい神経や血管まで捉えて正確で精密な操作が行えます。その結果、がんの根治性が向上するだけでなく、神経機能の温存による術後のQOL(生活の質)の向上が期待できます。

当科では、2013年のロボット支援下消化器がん手術導入以降、10年以上に渡る豊富な手術経験を有しています。食道がん、胃がん、大腸がん、直腸がん、肝がん、胆道がん、膵がん等に対し、各領域の専門医が、ロボット支援下(Xi & SP)、腹腔鏡下から開腹手術に至るまで、安全性・根治性・低侵襲性のバランスが取れた適切な外科治療を提供してまいります。

今後とも、変わらぬ御指導・御支援の程、宜しく  
お願い申し上げます。

